

各関係機関団体の長 殿

各病害虫防除員 殿

福岡県病害虫防除所長

平成 25 年度病害虫発生予察速報第 3 号について

このことについて、病害虫発生予察速報第 3 号（イネ縞葉枯病）を発表したので送付します。  
ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県内平均では平年よりやや高く、一部地域では特に高い傾向がみられました。  
例年、縞葉枯病の発生が多い地域では、防除の徹底をご指導願います。

速報第 3 号

- 1 対象作物：水稲
- 2 病害虫名：イネ縞葉枯病
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生時期：並
- 5 発生量：やや多
- 6 速報の根拠

平成 25 年 2 月～3 月に県内 16 地点のほ場の水稲刈り株から、ヒメトビウンカの越冬虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率をエライザ法で検定した。

その結果、保毒虫率は平均 8.4% で、平年（7.4%）よりやや高く、前年（12.3%）より低かった（表、図）。

7 防除上注意すべき事項

- （1）越冬世代成虫は小麦や越冬地付近のエノコログサ、イタリアンライグラス等のイネ科植物に移動し増殖するので、雑草防除を行い発生密度の低下を図る。
- （2）水稲苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。
- （3）前年度、本病が多発生した地域では、移植時期を可能な限り遅らせる（麦収穫後の 6 月 10 日以降）とともに、ヒメトビウンカに効果の高い箱施薬剤を施用する。
- （4）ヒメトビウンカの第 1 世代成虫は 4 月中旬頃から羽化し始め、麦の収穫とともに麦ほ場から水稲へ移動するので、5 月下旬～6 月上旬移植のほ場では移植直後から成虫の発生に注意し、水稲ほ場で発生が多い場合は防除を実施する。
- （5）ヒメトビウンカの発生量によっては、本病の多発生が心配されるため、今後の発生予察情報等を参考にする。

表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

番号	地点名	平成25年		平成24年	平成23年
		検定虫数	保毒虫率 %	保毒虫率 %	保毒虫率 %
1	宗像市朝町	94	7.4	9.6	8.5
2	筑紫野市吉木	94	11.7	3.2	6.4
3	久留米市山本町耳納	94	2.1	3.2	0.0
4	うきは市浮羽町高見	94	6.4	13.8	5.3
5	朝倉市菱野	94	10.6	25.5	16.0
6	嘉麻市中益	94	4.3	8.5	11.7
7	添田町中元寺	94	23.4	38.3	19.1
8	筑後市馬間田	94	0.0	3.2	5.3
9	大川市北古賀	94	0.0	0.0	1.1
10	みやま市瀬高町堤	94	6.4	8.5	8.5
11	八女市黒木町木屋	94	0.0	3.2	1.1
12	岡垣町黒山	94	8.5	9.6	10.2
13	遠賀町木守	94	19.1	18.1	12.8
14	行橋市辻垣	94	8.5	12.8	35.1
15	豊前市荒堀	94	16.0	23.7	21.3
16	みやこ町勝山	94	9.6	16.0	39.4
	本所管内		9.4	14.6	9.6
	筑後支所管内		1.6	3.7	4.0
平均	行橋支所管内		12.3	16.0	23.7
	県下全域	—	8.4	12.3	12.6

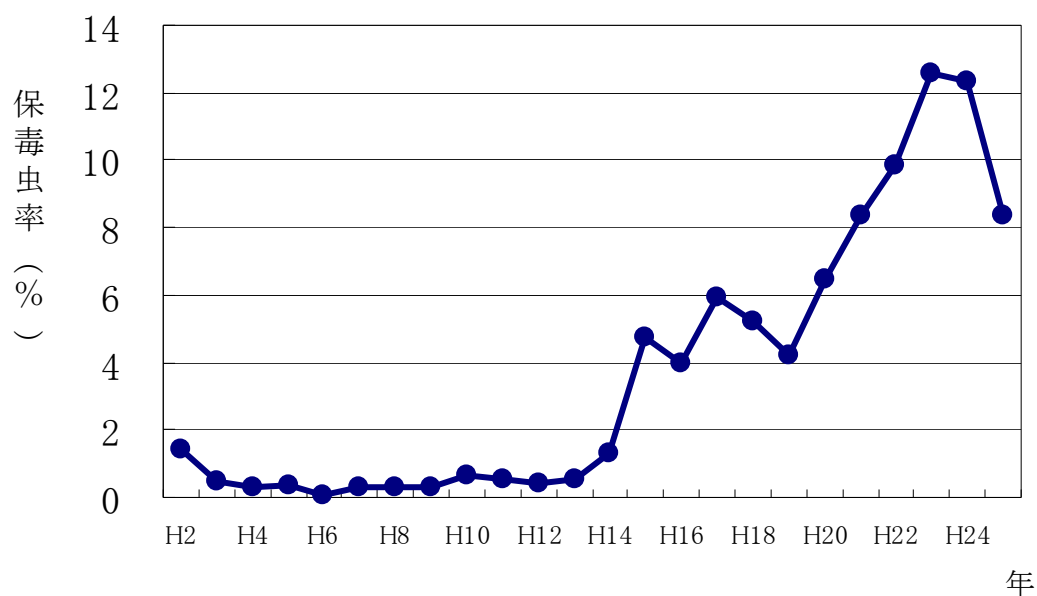


図 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移